

科目責任者 矢久保 修嗣 (臨床漢方研究室)

■教育目的

「天然物由来の薬物」である生薬は、その基原が植物、動物、昆虫および鉱物であり、古来より医薬品として利用されて来た。この歴史的背景を踏まえ、医薬品としての生薬ならびに医薬品開発における天然薬物の重要性について解説する。とくに代表的な薬用植物や生薬について含有される薬効成分などを含めて幅広く解説する。あわせて、現代医療に用いられている漢方薬についても概説する。

■学習到達目標

1. 自然が生み出す薬物として、薬になる動植物について理解する。
2. 薬の宝庫としての天然物を理解する。
3. 現代医療の中の生薬および漢方薬について理解する。

■準備学習（予習・復習）

予習：シラバスをもとに教科書など関連する箇所に目を通しておく。

復習：教科書、配布プリントなどで、授業内容が理解出来ているか確認する。質問は随時可能。

■授業内容

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	生薬とは	生薬の歴史・生薬から医薬品の誕生	C5(1)-②-1 C5(2)-④-1
2	生薬とマラリア	人類の病気との闘いと生薬	A(1)-④-1,2 C5(1)-①-1
3	薬用植物の分類	生薬の基原植物の形態と分類 基原植物、生薬の学名と命名法	C5(1)-①-1～3
4	生薬の品質評価	日本薬局方の生薬関連事項 通則、生薬総則、一般試験法など	C5(1)-④-1～5
5	生薬を用いた臨床の実際（1）	高齢者に対する漢方治療	E2(10)-①-1～4 E2(10)-②-1～3 E2(10)-③-1
6	臨床に用いられる生薬とその成分（1）	高齢者に用いられる漢方処方構成する代表的な生薬の基原植物・薬効成分など	C5(1)-①-1～3 C5(1)-②-1 C5(1)-③-1～2
7	生薬を用いた臨床の実際（2）	消化器症状に対する漢方治療	E2(10)-①-1～4 E2(10)-②-1～3 E2(10)-③-1
8	臨床に用いられる生薬とその成分（2）	消化器症状に用いられる漢方処方構成する代表的な生薬の基原植物・薬効成分など	C5(1)-①-1～3 C5(1)-②-1 C5(1)-③-1～2
9	生薬を用いた臨床の実際（3）	ストレスに対する漢方治療	E2(10)-①-1～4 E2(10)-②-1～3 E2(10)-③-1
10	臨床に用いられる生薬とその成分（3）	ストレスに用いられる漢方処方構成する代表的な生薬の基原植物・薬効成分など	C5(1)-①-1～3 C5(1)-②-1 C5(1)-③-1～2
11	生薬を用いた臨床の実際（4）	婦人病、冷えや頭痛に対する漢方治療	E2(10)-①-1～4 E2(10)-②-1～3 E2(10)-③-1
12	臨床に用いられる生薬とその成分（4）	婦人病に用いられる漢方処方構成する代表的な生薬の基原植物・薬効成分など	C5(1)-①-1～3 C5(1)-②-1 C5(1)-③-1～2
13	生薬を用いた臨床の実際（5）	呼吸器症状に対する漢方治療	E2(10)-①-1～4 E2(10)-②-1～3 E2(10)-③-1

No.	項目	授業内容	SBO コード
14	臨床に用いられる生薬とその成分 (5)	呼吸器疾患に用いられる漢方処方構成する代表的な生薬の基原植物・薬効成分など	C5(1)-①-1~3 C5(1)-②-1 C5(1)-③-1~2
15	生薬の化学的分類・注意を要する生薬・まとめ	生薬の有効成分による分類、取扱に注意を要する生薬について	C5(1)-①-1,4 C5(1)-②-1 C5(1)-③-2

■ 授業分担者

矢久保修嗣 (No.5・7・9・11・13)、馬場 正樹 (No.1・3・4・6・8・10・12・14~15)、小林 照幸 (非常勤講師) (No.2)

■ 課題 (レポート、試験等) のフィードバック及び成績評価方法

期末試験の成績 (90%)、授業への参加態度 (10%) で総合評価する。

■ 教科書

『パートナー生薬学 改訂第3版増補』竹谷孝一ら 編 (南江堂)

■ 参考書

『薬学生・薬剤師のための知っておきたい生薬 100 ー含漢方処方ー』日本薬学会 編 (東京化学同人)